

都道府県名	宮 城 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	古川市立古川第一小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特 殊	計	教員数
学級数	3	3	4	4	4	4	2	24	34
児童数	111	110	123	136	134	130	4	748	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「学ぶ力」を身に付け，共に伸びゆく児童の育成 算数科における，個に応じた授業づくりを通して</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

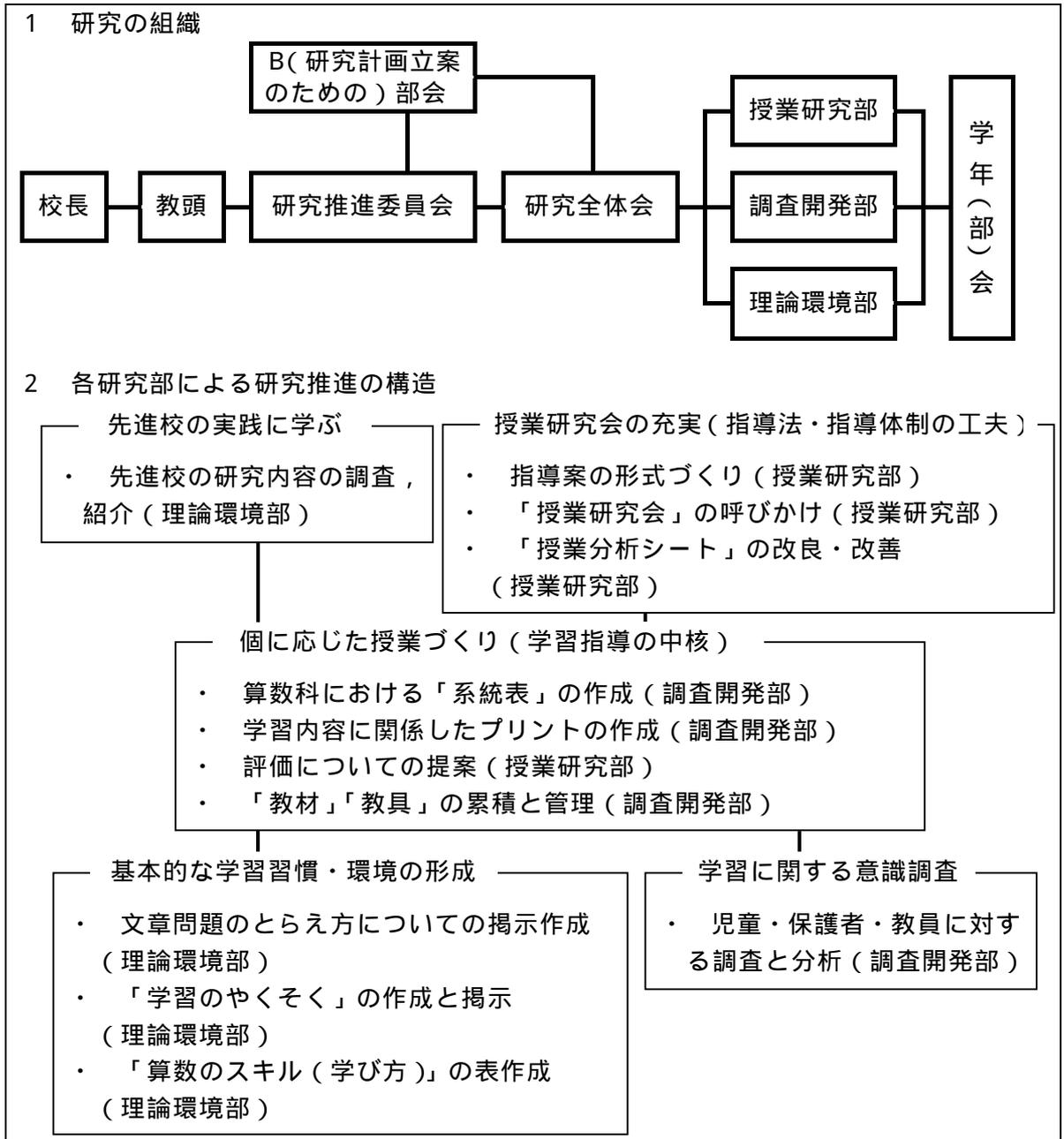
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年・算数科 基礎・基本の内容や学年ごとの系統性を明らかにしながら，全校で取り組むことができる教科であるため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「学ぶ力」を身に付け，共に伸びゆく児童の育成 算数科における，個に応じた授業づくりを通して 研究の見通し（研究仮説） 算数科の指導において，次の手立てを取り入れた個に応じた授業づくりを進めていくことにより，「学ぶ力」を身に付け，共に伸びゆく児童を育成することができるであろう。</p> <p>(1) 児童の学習内容に関する実態を分析し，個に応じた指導の在り方を工夫する。</p> <p>(2) 児童による自己評価と，判断基準をもとにした教師の評価を充実させ，指導に連動した評価を工夫する。</p> <p>研究の内容・方法 学力を本校なりに「学ぶ力」と定義し，具体的な押さえを行う。その上で，「学ぶ力」を育成するために，研究主題に基づいて，具体的な手立てを考える。</p> <p>研究仮説(1)として，指導体制の工夫，単元構成の工夫，課題の把握，個に応じた算数的活動，補充的学習・発展的学習の5つ，仮説(2)として，「振り返りカード」の活用，ノート，学習プリントの活用，評価表の作成と活用の3つの手立てを工夫し，実践を進める。</p> <p>学習内容に関する「系統表」を作成して，教材の系統を押さえ，児童の実態把握に生かし，より個に応じた授業づくりを行う。また，各学年部で求める「学ぶ力」の姿を設定する。「授業づくり」を組織的に構成し，本校における統一した「授業づくり」の流れを確認する。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「学ぶ力を身に付け、共に伸びゆく児童の育成」(2年次)</p> <p>研究の見通し(研究仮説) 授業づくりの一連の流れを押さえ、より個に応じた指導を進めていくことにより、「学ぶ力」を身に付け、共に伸びゆく児童を育成することができるであろう。</p> <p>(1) 児童の学習内容に関する実態分析と「系統表」による学習内容の把握を通し、個に応じた指導の在り方を工夫する。</p> <p>(2) 児童による自己評価と、判断基準をもとにした教師の評価を充実させ、指導に連動した評価を工夫する。</p> <p>研究の内容・方法 平成15年度に設定した「授業づくり」の流れをより一層徹底しながら、個に応じた指導を推進する。「学ぶ力」の評価の工夫を研究の中心に据え、個に応じた指導にフィードバックできるようにする。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 研究仮説(1)に関連して
「系統表」の作成と活用
児童の実態把握と同時に、学習内容がどのように系統的に配列されているかを踏まえて指導することの重要性が認識できた。全学年・全単元について、内容や技能の系統を明らかにして「系統表」にまとめ、指導に生かすことができた。
- 指導体制の工夫
全学年において、一斉指導・T T指導・少人数指導の在り方について検討し、それぞれのもつよさを確認することができた。また、指導体制の根本が一斉指導にあることが分かった。少人数指導では、児童の自己選択性のコース別学習を工夫することができた。
- 補充的学習・発展的学習
「系統表」をもとにしたレディネステストによって、児童の実態を把握し、指導に臨むことができた。その結果、段階的な補充プリントを用意したり、具体物等を用いた操作的活動を取り入れたりして、補充的学習を行うことができた。また、チャレンジ問題として発展的問題を提示して考えを深めさせたり、一部未習の内容に踏み込んだりする等、内容を工夫することができた。
- (2) 研究仮説(2)に関連して
「振り返りカード」の活用
本時の学習内容を振り返り、自己評価を継続して行かせた結果、自己評価能力が高まってきている。教師の側からも、指導の在り方を反省し、即時的な指導につながったり、次時に生かしたりすることができた。

2. 今後の課題

- (1) 指導体制の更なる工夫
一斉指導において、児童一人一人の活動や思考の深まりをどのように見取り、個に応じた指導を行うことができるか、工夫していきたい。また、少人数指導においては、ねらいを明確にし、コース分けの内容を工夫していきたい。
- (2) 児童の変容のとらえ
児童の変容をどのように見取り、どのように指導に生かしていくことができるか、なお研究を深めたい。「学ぶ力」と四観点の評価との関連、「学ぶ力」そのものの評価の仕方を工夫していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- 平成15年6月に、5年生を対象にして「学力到達度テスト」を実施。これは、本校独自のテストではなく、古川市内のすべての小学校5年生、中学校2年生を対象に実施したものである。
- 平成15年12月に、保護者・児童を対象にして、「意識調査」を実施した。これは、算数の学習を中心として、学習に対する取り組みの様子、意識等をつかむために行った。「学ぶ力」の押さえに基づき、「既習事項と関連付けながら考えようとしているか」「別な方法で解くことができるか考えているか」など、観点を設定して調査を行った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 平成16年1月30日(金)に、「自主公開研究会」を実施した。対象は、古川管内の他に、近隣の教育事務所管内の各小・中学校に案内を配布した。また、宮城県内のフロンティア事業指定校(38小・中学校)にも案内を配布した。
 - (1) 研究紀要、指導案集を作成し、配布した。
 - (2) 公開授業の単元に関する「系統表」を指導案集に綴じ込んだ。
 - (3) 公開授業の単元に関する「振り返りカード」、本時授業に関する「学習プリント」を、別紙として授業会場にて配布した。
- 2 平成16年10月8日(金)に、「公開研究会」を実施する予定である。対象は、上記の各学校の他、宮城県内のすべての小・中学校および東北各県の学校にも広く参加を呼びかけ、ご指導をいただきたいと考えている。
 - (1) 研究紀要、指導案集を作成、配布する。
 - (2) 本校で作成した「系統表」を、文書およびCD-ROMにして、参観者に提供する。
- 3 ホームページを平成15年4月に開設した。「自主公開研究会」を終えたところで、内容を更新し、本校の研究内容を紹介する。
- 4 次の各研究紀要に、「フロンティアスクールとしての取組」として、本校の取組を紹介した。
 - (1) 古川市教育研究会「研究紀要」
 - (2) 古川管内教育研究会「研究のあゆみ」
 - (3) 宮城県連合小・中学校教育研究会「研究集録」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.T.による指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無